

知っていますか？ HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）

子宮頸がんって？

HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で起こると言われているがんです。日本では毎年、**約11,000人**が子宮頸がんになり、**約2,900人**が亡くなっています。30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に**約1,000人**います。早期発見・治療で子宮を温存できたとしても、出産時のリスクがトがります。

<一生のうち子宮けいがんになる人>

1万人あたり132人

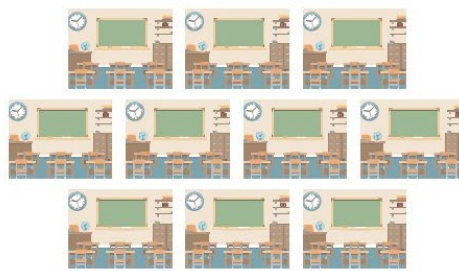
2クラスに1人くらい



<子宮けいがんて亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



1クラス約35人の女子クラスとして換算



つまりこれってどのくらい？



HPVワクチン接種でHPVの感染を最大90%予防



対象者：小学6年生～高校1年生相当年齢の女性

費用：無料（定期接種）

※特例 **平成9年度～平成19年度生まれの女性**
(誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日)

定期接種の年齢を越えても、
今ならワクチン接種が無料♪



特例期間（**令和7年3月31日まで**）が終わると、
最大**約10万円**を自分で支払うことになります。



接種は2～3回、接種完了まで約半年かかります。
無料期間内に接種を完了するために、早めの接種開始をお勧めします。

ワクチンの効果

HPVワクチンは2価、4価、9価の3種類。

2価、4価のワクチンは子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。

9価のワクチンは、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます。

HPVの感染を防ぐだけでなく、がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。



ワクチン接種後に現れる可能性のある症状

ワクチンの接種を受けた後に、接種を受けた部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。まれにですが、重い症状が起こることがあります。

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス®)	4価ワクチン(ガーダシル®)	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第2版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

安心して接種できる体制



ワクチン接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、接種した病院やかかりつけ医に相談してください。必要に応じて協力医療機関につないでくれます。

愛媛県では、愛媛大学医学部附属病院が、接種後に生じた様々な症状に対応する協力医療機関となっています。

世界では接種が進んでいる

WHO(世界保健機関)も接種を推進!

2022年12月時点で、120か国以上で公的な予防接種が行われています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは接種率が8割を超えています。

WHOは、2030年までに90%以上の女性が15歳までにワクチンを接種することを推奨しています。



相談やお問い合わせ先：お住いの市町の予防接種担課・医療機関(小児科・内科・産婦人科など)